

琉球弧研究最終報告書
島袋 小春・徳永 春陽

観光による地域おこし
～宮古島市の場合～

宮古島の観光客の人数は、年々増加してきています。私たちは、観光客数の増加の裏側でどのような地域おこしをしているのか気になりました。そこで、観光による地域おこし(宮古島市の場合)を研究テーマに、実際に宮古島に行って宮古島市役所の観光商工部観光商工課の、伊佐智彦さんに話を聞いてきました。

宮古島市の観光客数増加の背景には、空からの便だけでなく、クルーズ船がとまる港を開港してから、クルーズ船を利用して観光客が訪れるようになったという点があります。クルーズ船の中には、最大で6000人乗りの大型客船もあります。また、2019年3月には、宮古空港とは別に下地空港も開通し、新たな玄関口も増えたため観光客が訪れる手段も今までより豊富になりました。それに伴って観光客数もさらに増加してきています。

観光客が増えた事でのメリットとして、職業や本土の商業店の増加、建設業者も多忙で、市の税収もあがり、所得が増えるだろうと言われています。

一方で観光客の増加に伴い、デメリットも出てきました。宮古島には大学がないので、高校卒業後はほとんどの学生が島を出ていきます。そのため、人口ピラミッドの20代が大幅に減っています。20代が大幅に減るということは、アルバイトをする人もいないので本土から人を借りる事になり、。そうすると人が増えてアパートが減ったり、家賃が高くなったりして、ひどいところではワンルーム10万円のところもあるそうです。観光が伸びたのと同時に、家賃も上がってきて、島の若い人が住みにくい環境になってきています。飛行機や船などの一次交通が増えたので観光客は増え続けても、二次交通(都内を回る手段)でバスはおよそ100台、タクシーおよそ180台あっても人が足りない状況にあるので、二時交通の不足がでてきています。この流れがずっと循環しているので、職が増えても人が足りないという人手不足の状態がデメリットでもあり、大きな課題になっています。

また、観光客が増えてもカップラーメンなどを多く買うので、観光客が訪れる割には利益が上がらないという問題もあります。宮古島は海や農場などの農林水産業に強いので、そこをアピール点としています。海はアピールできているので、これからは農業ももっとアピールしていきたいところですが、安定するのが難しいのでストックしていく事が必要だと話し合いを用いています。

観光客が増えることで、地元の人からも問題点があがってきています。地元の人より観光客が多いので、交通渋滞はもちろん、タクシーで病院や空港に行きたくても観光客が使っていて地元の人にまわってこないことも多いので、とても問題になっています。宮古のきれいな海でも、人が多すぎるとサンゴを踏んでダメにしてしまうので海的环境も悪くなってしまいます。

このように、観光客の増加の裏側では多くの問題が起こっていることを知りました。でも、農業だったらお年寄りやひとり暮らしの人がゴーヤーを一本買っても全部食べきれない事を考え、冷凍食品にして必要な分だけ使えるようにしたり、冷凍でストックを増やしたり、人手不足や二次交通に関しては、外国人労働者の導入や、バス・タクシー・レンタカーを増やしてしっかり課題に対応していこうと考えている姿を見ることができました。

観光客が増えている反面、課題や問題も増えているということを、実際に行って現地を見て思い知らされました。